

那珂川町図書館

オススメの1冊

『わたし、解体はじめました』 畠山 千春／著 木楽舎 【648.2 ハタ】

この本は、著者の^{はたけやまちはる}畠山千春さんが解体3年目、猟師1年目の時に出版した本で、なぜ解体をしようと思ったのか、どうやって猟師になったのかの過程が描かれています。

畠山さんは、以前から自給自足の生活に漠然とした憧れがあったそうですが、当時は一般企業で働いていたため、いつか挑戦してみたいという考え程度だったそうです。しかし、東日本大震災（2011年3月11日）を横浜で経験した際、目に見えない“大きなもの”に依存した生活から一歩踏み出したい！という気持ちが強くなり、また、家族会議を埼玉の実家で開き、離れて暮らしていることについて色々と意見が出たときに、父親から「家族を守りたいなら、まず自分自身が絶対に生き抜くこと。生きていたら必ず会える。そうすれば家族を助けられるから。」という言葉を受け、「絶対に生き抜いてやる！」という生への強い執着心がうまれたそうです。

これが自給自足の生活をするチャンスだと考えましたが、どこから始めればいいのかと悩んだ時に、食べ物があれば生きていけるのではないかと強く感じ、食べ物の中でも特に見えにくい工程である“解体”に興味を持ち始めたそうです。そして、知り合い5.6人と、自分たちだけで鶏を絞めて食べる企画を行い、この機会にきちんと解体の勉強しようと考え、友人から山梨県のジビエ料理のシェフを紹介してもらい、その人に付いて解体を始めました。

その後、ワークショップを行ったり、狩猟免許を取得したり、狩猟を始めたり、様々な経験をされています。この本は、はじめて解体を行ったときに感じた事、自身が行った解体のワークショップでの参加者の感想なども知ることができます。巻末には、狩猟免許の取得方法や鶏とイノシシの解体方法、野生肉の料理方法や解体・狩猟の見学・体験場所の紹介があり、解体方法などはイラスト付きで紹介されています。

物を食べるという事、命を頂くということについて、改めて考えてみませんか。

那珂川町図書館（なまけもの）